認知症コラム

若年性認知症支援コーディネーター　古屋富士子氏　Vol.3

久里浜医療センターで若年性認知症支援コーディネーターとして、相談業務に従事している古屋さんに、お話を伺いました。

【相談としては就職支援の仕事が多いのでしょうか。】

相談者は、50代の方も決して少なくはありません。働き盛りですよね。前にも述べていますが、就労支援は私たちコーディネーターの重要な業務だと思っています。一番良いのは、若年性認知症と診断されても、今の職場で働き続けることだと思います。

当初は60～64歳の女性の方が多かったです。スーパー等のパート勤務で職場でのミスが目立ち、つらい思いを経て、退職後に相談に来られる方が数名続きました。本人も家族も再就職は考えていなかったので介護保険サービスに繋がるまでの居場所を一緒に考えました。

横須賀市の在住者は、職場が横浜市や東京都の方が多く、働きながら職場の近くの医療機関に通院していることが多いため、相談がなかなか居住地につながらない。通勤困難になり地元の病院を紹介されて初めて把握できる。病状が進行してしまって、就労支援よりも、障害福祉サービスや介護保険サービスに繋がるケースが多いと考えています。

近頃は、産業医の先生方も変わってきていると感じています。当初は、「進行性疾患なので就労継続は無理ですよ、会社側も無理と言っていますよ。本人が継続したいといっても無理でしょうね。」と・・・。最近は、「本人はまだ働きたいと言っている。できればその思いに答えたい、やれることを上司と相談して探してみますね。」という返事をいただいたことがあります。

全国規模のチェーンで店長をされていたが、コミュニケーションがうまく取れず在庫整理に配置換えで就労継続された方がいます。家族から「本人は仕事がつまらない、やりがいがないと言っている。妻の私が見ても以前のように生き生きとしていない。古屋さんから産業医や上司に話して、前の立場に戻してもらうようにお願いしてもらえないか。」と相談がありました。妻の気持ちも理解でき、そばで見ているのはつらいだろうが、ここは、頑張っているよと励ましてほしいと伝えました。現在も就労継続中です。

問い合わせ先：健康長寿課　介護予防係（046-822-8135）